

トラック輸送情報（平成14年12月分）

平成15年 3月 5日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

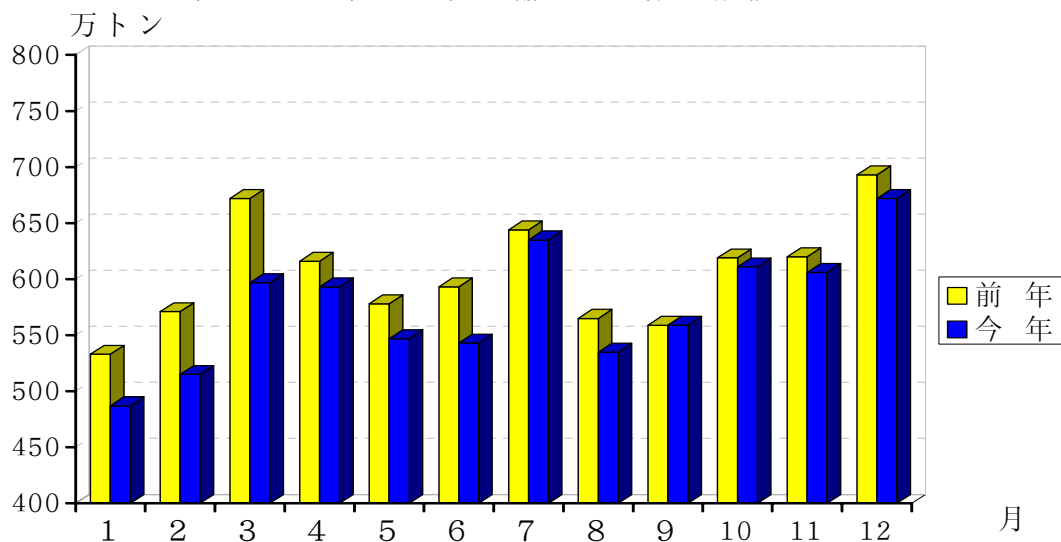
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

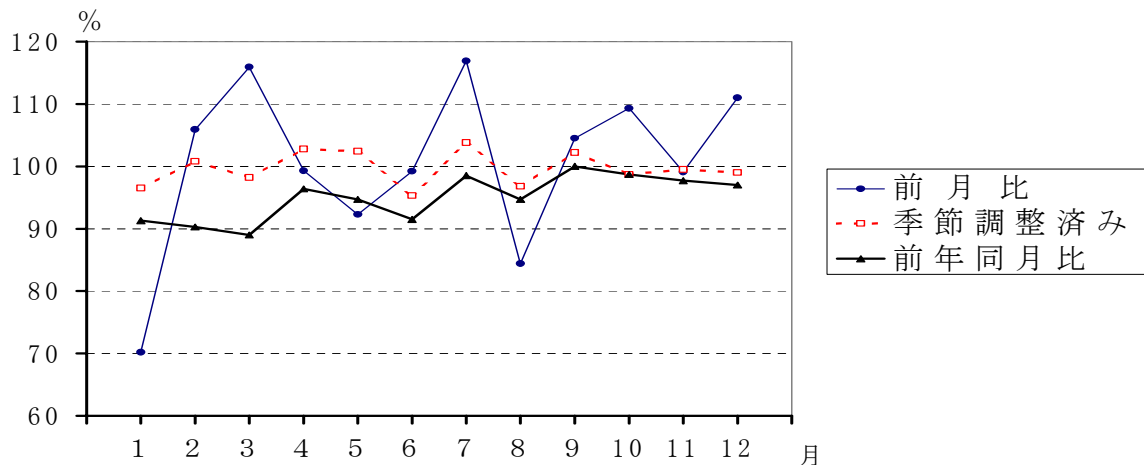
調査対象26社の本月の輸送量は6,723,610トンで、前年同月比 97.0%、前月比111.0%(季節調整済み 99.0%)の実績であった。(図1-1、図1-2参照)

なお、平均稼働日数は、23.0日、稼働1日当たりの輸送量は292,331トンで、前年同月比 93.2%、前月比113.9%となった。

(図1-1) 26社の輸送トン数の推移



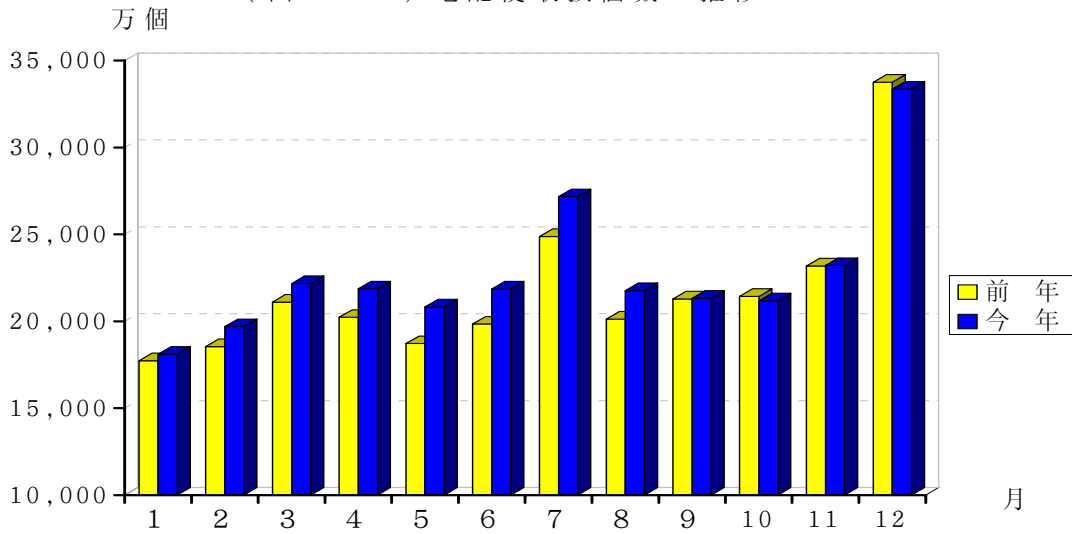
(図1-2) 前月比・前月比(季節調整済み)・前年同月比



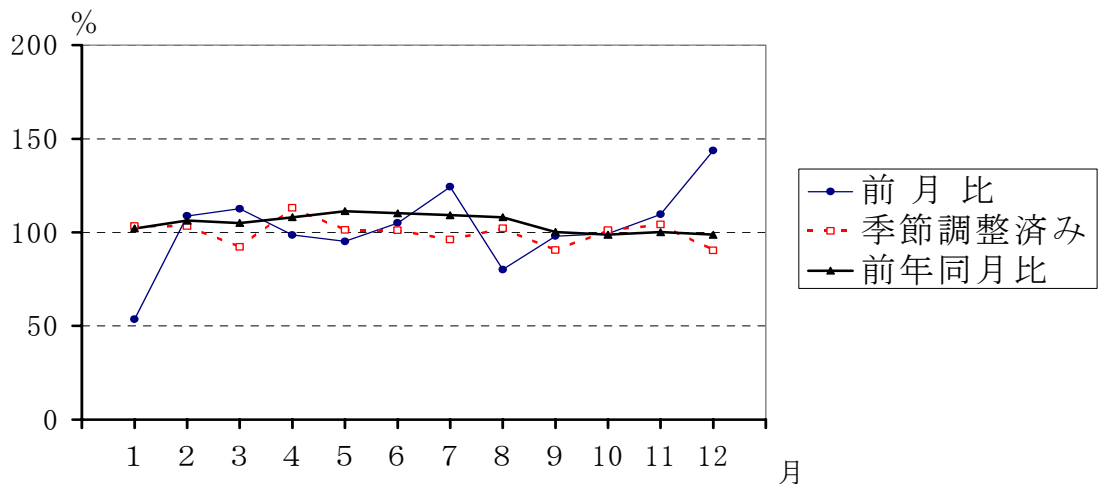
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は333,560千個であり、前年同月比 98.8%、前月比143.7% (季節調整済み 90.4%) であった。(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 前月比・前月比(季節調整済み)・前年同月比



(3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は0.6日減少し、稼働1日当たりの輸送量は約3.6万ト増加したため、前月比113.9%の実績となった。総輸送量について先月と比べ約67万ト増加したため、前月比111.0%の実績となった。宅配便について、約1億139万個増加したため、前月比143.7%の実績となった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は0.9日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約2.1万ト減少したため、前年同月比93.2%の実績となった。総輸送量について、約21万ト減少したため、前年同月比97.0%の実績となった。宅配便について、約402万個減少したため、前年同月比98.8%の実績となった。

(4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、本格的な歳暮期を迎えたが、前月と比べ、稼働日数が0.6日減少したことにより、ほぼ全ての品目において微減傾向が見られた。中でも、繊維工業品が、関東、中国において、工場・生産地からの貨物減を主な理由として減少している。

前年同月と比べると、ほぼ全ての品目において減少傾向にあった。中でも、繊維工業品が関東において、工場・生産地からの貨物減を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	減				
前月に比べて	農水産品	1	12	4		九州	4, 8	
						米、農産品、青果物	東北、関東	4
	金属製品			14	6			
						建築用金属製品	関東、中部、近畿、中国	4
	機械	1	17	2		自動車部品		
						機械部品	中部、大阪	4
	化学工業品	2	16	4				4
						化学薬品、窯業製品	関東、中国	4
	繊維工業品	1	15	5	2		関東	4
						織物、洋服	関東、中国	4
食料工業品	2	8	8	3	加工食品、製造食品、飲料	関東	4, 8	
						東北、関東、北陸信越	5	
日用品	5	10	6		暖房器具	全国	8	
					雑貨品、家具、玩具、文具	東北、関東、北陸信越	4	
その他	3	2	15	1	宅配貨物、百貨店配送品	全国	2	
					輸送用容器	東北、関東	4, 9	
前年同月に比べて	農水産品	1	12	4		中国	4	
						野菜、畜産物	関東	4, 9
	金属製品	1	15	4			近畿	9
							大阪	4, 9
	機械	1	4	13	2	機械部品、自動車部品、農	東京	4, 9
						家電製品	関東、北陸信越	4, 7, 9
	化学工業品	4	13	5		化学薬品、合成樹脂、塗料	東京、大阪	4
						加工紙、パルプ	関東	4, 9
	繊維工業品	1	15	7			近畿	9
						織物	関東	4
食料工業品	4	12	5		加工食品、飲料	近畿	7, 8	
						関東、中国	2, 4, 5	
日用品	3	10	8		一般貨物	近畿	4, 5, 8, 9	
					身廻品、書籍・印刷物	全国	4, 5, 9	
その他	1	4	10	6		全国	4, 8, 9	
					宅配貨物	全国	2, 4, 5, 9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 874社 / 調査対象事業者数 1,110社）の輸送量は、前年同月比 99.3%、前月比101.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	99.3%	93.8%	98.4%	101.7%	97.1%	102.1%	101.1%	106.5%	103.9%	98.4%	119.1%
前月比	101.4%	98.0%	102.2%	102.1%	98.7%	100.1%	103.6%	103.4%	105.3%	104.1%	109.3%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、冬期に入り暖房用灯油などの「石油製品」、排雪などの「廃棄物」の輸送増があったが、収穫期の終了により農産品、土木・公共工事の減少により「砂利・砂・石材」「セメント」等の輸送減があったことから対前月比98.0%となった。また対前年同月比も93.8%となった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にあると思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、年末の繁忙期を迎え、「食料工業品」「日用品」「取り合せ品」等の輸送が増加したが、「野菜・果物」の収穫時期が終わったこと、また降雪期を向かえたため公共工事が減少したことにより、「セメント」等の建築資材の輸送量が減少した。このため輸送量としては対前月比102.2%ではあったが、対前年同月比では98.4%と依然として厳しい状況が続いている。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向である。</p>
関東	<p>本月の輸送は、年末のため「野菜・果物」「食料工業品」「日用品」等を中心とした品目の荷動きが良好だったため、対前月比102.1%、対前年同月比においても101.7%と増加した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、年末のため正月用品や野菜・果物等の輸送が増加し、また、灯油など「その他の石油製品」や「揮発油」等の需要増による輸送量の増加が見られたが、全般的に景気が悪いことに加え、休日の増加による稼働日の減少により、対前月比98.7%となった。また、対前年同月比も97.1%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、年末の工場等の休業や荷主側の生産削減・在庫圧縮の要因で「その他の窯業品」「化学薬品」「繊維工業品」が減となっているが、その一方で、お歳暮シーズン等の季節的需要により「その他の農産品」「日用品」「取り合わせ品」「その他」が増となっているため、対前月比100.1%と横ばい、また対前年同月比は102.1%と増加となった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、年末年始の需要増に伴って「日用品」や「食料工業品」の増加が目立った。他に納期集中のために「機械」に増加が見られる。このため対前月比103.6%、対前年同月比も101.1%となった。しかし、この増加は年末繁忙期の一時的なものと考えられるので、今後の輸送見通しは次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、正月用の雑誌・はがき等の「紙・パルプ」、歳暮用の「食料工業品」「取り合わせ品」を中心に需要があった。このため対前月比では103.4%、対前年同月比は106.5%と増加した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、不況に伴う土木関係品目に輸送減が見られたものの、先月に引き続きみかん出荷の最盛期であること、また年末年始による贈答用関係の品目で、冬期における暖房用燃料としての「揮発油」「その他石油製品」の増加があったことから対前月比105.3%、対前年同月比は103.9%と共に増加傾向であった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、年末年始における稼働日数の減少及び景気の低迷が原因の輸送減もあったが、年末における、贈答用関係の食料関係品や日用品等については増加しており、対前月比104.1%と増加したが、対前年同月比は98.4%と引き続き減少した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、年末を迎え、「穀物」「食料工業品」など正月用品等の輸送が増えた。また、ロールペーパーやダンボール等の「紙・パルプ」の輸送需要も増加し、先月に引き続き菊等の切花の出荷による輸送需要も増加した。県内景気の若干の改善も影響し、対前月比109.3%、対前年同月比119.1%の実績となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	3	0	0	0	0	0	0	1	1	5
	減	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6
2. 野菜・果物	増	2	0	3	2	1	0	0	4	4	0	16
	減	6	3	1	1	1	1	0	0	4	0	17
3. その他の農産品	増	0	1	0	0	2	0	0	1	1	1	6
	減	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
4. 畜産品	増	1	0	1	0	0	0	1	0	2	0	5
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
5. 水産品	増	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	5
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
6. 木材	増	1	3	0	0	0	0	0	0	4	0	8
	減	2	2	0	1	0	0	1	1	1	0	8
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. 金属鉱物	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	3
10. 砂利・砂・石材	増	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	11	1	0	2	0	0	0	0	4	0	18
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	減	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
12. 鉄鋼	増	1	0	0	2	0	1	1	0	1	0	6
	減	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	6
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	4
14. 金属製品	増	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0	5
	減	0	0	1	3	0	1	0	0	5	0	10
15. 機械	増	0	1	2	1	0	2	0	0	0	0	6
	減	1	0	2	2	2	0	0	1	1	0	9
16. セメント	増	0	1	0	1	0	1	1	1	3	0	8
	減	2	3	0	2	0	0	0	2	2	0	11
17. その他の窯業品	増	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	4
	減	2	2	0	2	1	0	1	0	2	0	10

